



第11週の発生動向(2005/3/14~2005/3/20)

1. インフルエンザについては、青森県内すべての保健所管内において**警報**が継続しており、むつ保健所管内が増加傾向にあります。
2. 感染性胃腸炎については、青森保健所管内の44人、弘前保健所管内の59人、むつ保健所管内の45人と多い報告数が続いているため引き続き注意が必要です。

第11週五類感染症定点把握

保健所名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	定点数							
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	青森	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ	
(72) インフルエンザ	721	55.46	628	39.25	646	46.14	181	25.86	478	53.11	509	84.83	3163	48.66	-428								
(60) 咽頭結膜熱			1	0.09							1	0.25	2	0.05	2								
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	2.50	23	2.09	8	0.89			2	0.33			53	1.23	-19								
(62) 感染性胃腸炎	44	5.50	59	5.36	20	2.22	10	2.00	18	3.00	45	11.25	196	4.56	35								
(63) 水痘	12	1.50	13	1.18	32	3.56	6	1.20	4	0.67	2	0.50	69	1.60	7								
(64) 手足口病			1	0.09	2	0.22			3	0.50			6	0.14	-15								
(65) 伝染性紅斑	7	0.88	1	0.09	3	0.33							11	0.26	4								
(66) 突発性発しん	5	0.63	4	0.36	2	0.22			4	0.67	3	0.75	18	0.42	5								
(67) 百日咳																							
(68) 風しん															-1								
(69) ヘルパンギーナ															-1								
(70) 麻しん(成人を除く)																							
(71) 流行性耳下腺炎	3	0.38	1	0.09	5	0.56	8	1.60	4	0.67			21	0.49	5								
(73) 急性出血性結膜炎																							
(74) 流行性角結膜炎			1	0.33	2	1.00	2	2.00					5	0.45	1								

■ は警報です。 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) 弘前保健所管内(0157): 1人(17年計 2人)
- (45) アメーバ赤痢(五類全数把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (第10週報告)
- (55) 梅毒(五類全数把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (第11週報告)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (17年計 26人)

感染症の窓

アメーバ赤痢

病原体は原虫に分類される赤痢アメーバ(Entamoeba histolytica)です。 全国及び青森県と東北5県の報告状況

感染症法では五類全数把握感染症に属します。

2005年3月23日現在

疫学 衛生環境の悪い国において頻度が多かった感染症ですが、近年は先進国にも拡大してきています。

臨床症状 下痢、粘血便、しぶり腹、鼓腸、排便時の下腹部痛あるいは不快感などの症状を伴う慢性腸管感染症(腸アメーバ症)。肝膿瘍、肝腫大(腸外アメーバ症)。

感染経路 赤痢アメーバシスト(嚢子)に汚染された飲食物などの経口摂取。

検査上の注意: 検便において、1回の検査では認められず連続3日程度の集中検査が必要とされています。

感染予防 流行地域においては、糞便の処理を衛生的に行い、嚢子排出者が発見された場合には伝播を防ぐよう環境に配慮することが大切です。

	2004年	2005年
全国	326	65
北海道	7	1
青森県	0	1
岩手県	0	0
宮城県	10	2
秋田県	2	0
山形県	1	2
福島県	2	1